



止めまじょう！
テロも戦争も

日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団
2015.3.26.No.1301.
ご相談はお気軽に
TEL FAXとも **3905-0970**
さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)

自治会・町会の高齢者見守り活動への支援

◎4年前の東日本大震災の時、自治会や町会の方々の高齢者宅を訪問しての安否の確認などの活動が大変喜ばれました。

◎この貴重な活動を生かそうと、共産党の宇都宮章区議が、区の助成を提案しました。翌年、**高齢者見守り・支えあい活動促進補助事業**がスタートしました。

**4年目を迎える新年度、45団体
7675人がその対象となります。**

◎ところが北区は、4年目からの助成はやめようとしたため、継続の声が続々と。

**4年目以降に
十分な支援を**



↑北区がとりまとめた地域見守り・支えあい活動の報告書

緊迫する国会情勢を報告

小池晃参院議員
池内さおり衆院議員

9名の区議団もそろって、おはなします。

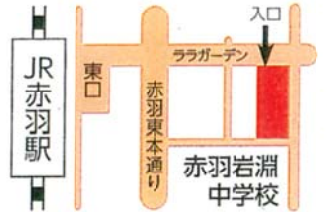
日本共産党 演説会

3月28日(土) 午後2時開会

赤羽岩淵中学校体育館 (地図参照)

※JR赤羽駅東口より徒歩5分。スズラン通り商店街(ララガーデン)に面した正門からお入り下さい。

- 安倍政権の暴走ストップ
- 北区がためこんだ465億円の積立金は暮らし応援に活用を
- 北区から政治を変える日本共産党の訴えを、ぜひお聞き下さい。



あんず 「実がいつばいとれるんだよ」
都路一 赤羽西5丁目



2015/02/28



たのばな 小学校の卒業式会場にも... 桐郷

日本共産党の「予算組み替え動議」と 自民・公明などと党会派が反対

◎前号の「レポート」で紹介したように、予算組み替えの提案の中には、上記の見守り活動の4年目以降の助成も求めています。

◎**特養ホームや認可保育園増設**の必要性や緊急性については、与党も認めていました。

◎**国保料、介護保険料を上げられ
給金は削減**。給2.5%削減の影響は、共有給金のふくめると、年間30億円以上となることを認めました。だから「暮らし応援が必要なのさ」。

高齢化・低所得のおむ中、 UR居住者の願いは低廉な家賃 3/25 池内さおり衆院議員が追及

◎内閣委員会の質疑日程が急きょ決まり、3月25日(水)午後3時40分から、衆議院・内閣委員会の傍聴にかけつけました。

◎区内URの3団地の調査、赤羽台団地での居住者の方々の声アンケート、足立区議会意見書も紹介して、「まずぐに」声を届けた池内議員でした。

財源はある 積み増しする財調
査と活用すれば、30億円の予算ができる
内容を提案したのです。

「ごちそうさん」
「花子とアン」
「アッサン」

戦争によって、人々の
日常のくらしが、いとも
簡単に壊され、若者が、
夫が、息子が戦場に
駆り出されていく様
子が描かれていました。
戦後70年の年を
決して戦前には
ならないと、この記事を
読んで、あらためて思い
つよめています。

安倍・自公政権の暴
走を止めましょう。

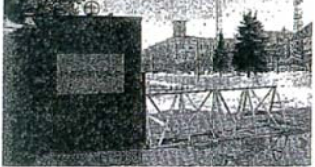
3.28演説会の
会場をいっばいに
江意志表示す!

陸自、隊員に「遺書」強要

～2015.3.25付「しんぶん赤旗」1面～



「遺書」を強要した陸自北部方面
総監部（中央奥の建物）＝札幌市



服務指導に納得できず取り戻した「遺書」を手にする元隊員。
「体を大切に幸せに長生きしてください」と病弱な妻へのいたわりの言葉があります（写真は一部加工してあります）

北部方面隊

「戦争立法」備える事態

「海外で戦争する国」へ集団的自衛権の行使容認と、それを具体化する「戦争立法」へと暴走する安倍政権と自衛隊。それに備えるかのような事態が自衛隊で始まっています。「殺し、殺される」武力行使を想定したとみられる「遺書」の強要が、陸上自衛隊で実施されていることが24日、自衛隊関係者への取材でわかりました。（山本真直）

「遺書」を強要したのは、上司の説明に納得せず陸自北部方面隊（札幌市）。同方面隊関係者によると、2010年夏以降、所属部隊の隊長ら上司から、「家族への手紙」を書き、ロッカ1に置くように」と「服務指導」されたといっています。これは自衛官にとって事実上の「命令」に等しく、絶対服従が求められています。同方面隊の道東の部隊で

「家族への手紙は」物

員は「殉死（戦死）への覚悟を求めたものであることを感じた」と証言します。

陸自北部方面総監部は本紙の取材に「同方面隊の千葉徳次郎総監の提案で、就任中の2010年7月から12年7月にかけて全ての隊員（約3万8000人）を対象に実施した。遺書とは認識していない。入隊時に宣誓した任務を完遂するための具体的な方策の一つで、任意であり服務指導の範囲だ」としています。同方面隊は、陸自隊員の約4分の1を擁し、最も多く海外派兵している部隊です。

要は「国のため」

隊員の疑問当然

自衛隊人権裁判弁護団の佐藤博文弁護士の話、自衛隊は、遺書の返還を求めた隊員に「単に自己の死亡のみに準備する遺書とは全く別物である」と書面で答えている。要するに「国のため」「公務」として「死ぬのだ」と強要している。隊員の多くが疑問に感じているのは当然だ。未成年の新入隊員にまで書かせている。憲法を無視して海外で戦争する軍隊を持つとはこういうことだ。

「家族への手紙」置いていけ

「遺書」強要が始まる前年の6月には、自民党国防部会が「防衛計画の大綱」見直しへの提言をまとめた。そこには、昨年の安倍政権による閣議決定などにつながる集団的自衛権行使容認、海外派兵恒久法制定が明記されていました。同方面隊第11旅団真駒内駐屯地（札幌市）の元隊員は、こう告発します。「手紙」は、明らかに今、安倍政権が躍りになっている集団的自衛権行使容認を想定した、海外での武力行使戦争への覚悟を隊員に植え付ける意図があったことは間違いない」